

マーケット週間レポート：今週を振り返った為替・経済の最新ニュース

2025年7月21日～27日

目次

- 1. エグゼクティブサマリー
- 2. 為替市場の動向
- 3. JP 日本経済
- 4. US 米国経済
- 5. CN 中国経済
- 6. その他の地域
- 7. 来週の注目ポイント
- 8. マーケット見通し

エグゼクティブサマリー

キーポイント

この週は**米国市場の5日連続での史上最高値更新**という歴史的な展開となった。好調な企業決算と日米間の貿易交渉進展への期待が市場を押し上げる要因となった。一方で、投機的な過熱感に対する警戒も強まっている。

今週最大のサプライズ: 日米貿易交渉の急転直下の合意と、それに伴う円相場的大幅反発

主要指標サマリー（7月25日終値）

指標	価格/レート	変動	変動率
日経平均	41,456.23	-370.11	-0.88%
S&P 500	6,388.64	+25.29	+0.40%
ダウ平均	44,901.92	+208.01	+0.47%
ナスダック	21,108.32	+50.36	+0.24%
USD/JPY	147.62	+0.37%	円安
EUR/USD	1.1744	-0.08%	ユーロ安
金	3,335.60	-1.12%	下落
原油（WTI）	65.16	-1.32%	下落

為替市場の動向

主要通貨ペア（7月25日時点）

通貨ペア	現在値	変動率	トレンド
 USD/JPY	147.62	+0.37%	▲ 円安継続
 EUR/USD	1.1744	-0.08%	▼ ユーロ安
 GBP/USD	1.3439	-0.52%	▼ ポンド安

ハイライト

為替市場では、**4月と同じような情景が再現**された一週間だった。日米関税交渉の難航懸念から円売りが進み、一時150円台に迫る場面もあったが、**急転直下の日米関税合意**により円が大きく買い戻された。

トランプ米大統領の対日強硬姿勢が軟化したことで、円相場は145円台まで回復。市場では「円長期停滞シナリオ」に現実味があるとの見方も出ている一方で、今回の合意により当面の下値不安は後退した。

JP 日本経済

主要指標・ハイライト

指標	現在値	前回比	注目度
 日経平均	41,456.23	-0.88%	★★★★
 長期金利	1.600%	±0.000	★★★
 需給ギャップ	供給不足	-	★★★★

重要な動向

デフレ脱却は既に3年目に入っている**可能性**が民間エコノミストの間で議論されている。内閣府の推計では需要不足とされているが、民間推計では大幅な供給不足となっており、深刻な人手不足が成長の足かせとなっている実態が浮き彫りになった。

また、**トヨタの豊田章男会長が米国生産車の国内販売に意欲**を示すなど、日米貿易摩擦緩和を受けた企業戦略の変化が注目されている。

★ 重要: 需給ギャップの見方が変われば、これまでの財政出動による需要底上げ政策の根拠が揺らぐ可能性がある

us 米国経済

主要指標・ハイライト

指標	現在値	前回比	状況
 S&P 500	6,388.64	+0.40%	 史上最高値更新
 ダウ平均	44,901.92	+0.47%	 史上最高値更新
 ナスダック	21,108.32	+0.24%	 史上最高値更新
 10年債金利	4.3860%	-0.50%	金利低下

注目の展開

米国市場は**5日連続での史上最高値更新**という異例の強さを見せた。好調な企業決算が相次ぎ、特にテクノロジー セクターの業績拡大期待が市場を牽引している。

一方で、ゴールドマン・サックスは**「投機的な熱狂が株式市場下落のリスクを高めている」**と警告。「何でもあり」の相場局面に入ったとの分析もあり、過熱感への警戒が必要な状況となっている。

CN 中国経済

重要な動き

中国では**AI行動計画を米国に続いて発表**し、グローバルな技術競争が激化している。また、**中国で拘束された日本人の半数が「日本の情報機関に協力」**していたとの報道もあり、日中関係の複雑さが浮き彫りになった。

経済面では、EVセクターで**「第2の恒大」説**が浮上するなど、政府主導の債務短縮により成長に転機が訪れる可能性が指摘されている。

 その他の地域

EU 欧州

- **EU委員長がトランプ氏とスコットランドで会談**し、環大西洋貿易戦争回避に向けた協議を実施
- **ドイツDAX指数**は24,217.50 (-0.32%) で小幅下落

GB 英国

- **FTSE 100**は9,120.31 (-0.20%) で微減
- 英国経済は5月にも再び縮小し、予想を下回る結果

CH スイス・その他

- **貴金属市場**では金・銀ともに調整局面
- 原油価格は供給懸念の後退で下落

 来週の注目ポイント

経済イベントカレンダー

日付	重要度	イベント	予想値
7/29	☆☆☆	日本：金価格動向生配信	-
7/30	☆☆☆	Fed会合・Mag 7決算	注目
7/31	☆☆	米雇用統計	重要
8/1	☆☆	貿易協議期限	トランプ関税

📌 注目ポイント

- 1. Fed金融政策会合の結果と今後の利下げペース
- 2. 大手テクノロジー企業（Mag 7）の決算
- 3. 日米貿易協議の具体的進展
- 4. 中国AI政策の詳細発表

🎯 マーケット見通し

短期見通し（1-2週間）

- ◆ 強気要因
 - 好調な企業決算の継続
 - 日米貿易摩擦の緩和
 - AI関連技術革新への期待
- ◆ 弱気要因
 - 投機的過熱感への警戒
 - 地政学的リスクの継続
 - 金融政策転換への不透明感

中期見通し（1-3ヶ月）

市場は**「何でもあり」の局面**に入っており、さらなる上昇余地がある一方で、過熱感に対する調整リスクも高まっている。日米貿易協議の進展は円安圧力を和らげる可能性があるが、構造的な円安トレンドは継続する見込み。

リスク要因

- 1. 投機的バブルの形成と急激な調整
- 2. 地政学的緊張の再燃
- 3. 予想以上のインフレ圧力

4. 企業決算の期待外れ

投資家向けアドバイス

現在の市場環境では**慎重な楽観論**が適切である。上昇トレンドに乗りつつも、利益確定のタイミングを見極めることが重要。特に過熱感の強いセクターでは、ポジションサイズの管理に注意が必要である。

ディスクレーマー

本レポートは情報提供を目的としており、投資勧誘や投資アドバイスを目的としたものではありません。本レポートに記載されている情報は2025年7月27日時点のものであり、その正確性、完全性、または適時性を保証するものではありません。

本レポートの内容に基づいて行われる判断や行動、またはそれにより生じる結果について、当社は一切の責任を負いません。投資判断は投資家ご自身の責任において行ってください。過去の投資実績は将来の投資成果を保証するものではなく、投資には常にリスクが伴います。